

# 令和4年度病害虫発生予察事業年報

## I. 事業目的

農業生産の安定的発展と生産物の品質向上を図るため、指定有害動植物及び指定有害動植物以外の有害動植物（以下、「病害虫」という）について、その繁殖、気象、農作物の生育状況等を調査し、病害虫の発生とそれによる損害を予測し、適期適正な防除実施に必要な情報を関係機関等に提供することを目的とする。

## II. 事業実施方針

病害虫発生予察事業の調査実施基準に基づいて、その目的、性質等を考慮して設置された県予察ほ場、地区予察ほ場及び害虫誘殺施設等による定点調査のほか、一般ほ場における巡回調査を実施し、定期または適期に関係機関等に発生予察情報を提供して、適切な防除の推進を図る。その他、県内で問題となる病害虫や侵入病害虫、新規発生病害虫に関する調査および情報提供なども実施する。

## III. 対象病害虫の種類

作物名	対象病害虫
水 稲	(指 定) いもち病、紋枯病、縞葉枯病、もみ枯細菌病、ばか苗病、稲こうじ病、ヒメトビウンカ、トビイロウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、ニカメイガ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、イネカメムシ）、イネミズゾウムシ (指定外) 白葉枯病、萎縮病、ごま葉枯病、内穎褐変病、疑似紋枯病、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イナゴ類、イネシンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ
キャベツ	(指 定) 黒腐病、菌核病、アブラムシ類（ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ (指定外) べと病、灰色かび病、軟腐病、モンシロチョウ、ハイマダラノメイガ、ウワバ類
ハクサイ	(指定外) べと病、黒斑病、軟腐病、白斑病
タマネギ	(指 定) 白色疫病、べと病 (指定外) ボトリチス属菌による葉枯病、軟腐病、さび病
ス イ カ	(指 定) アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、シロイチモジヨトウ (指定外) つる枯病、うどんこ病、疫病、炭疽病、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アザミウマ類

作物名	対象病害虫
キュウリ	<p>(指 定) ベと病、うどんこ病、灰色かび病、褐斑病、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ）</p> <p>(指定外) 斑点細菌病、疫病、モザイク病、黄化えそ病、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）</p>
ナス	<p>(指 定) うどんこ病、灰色かび病、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、ハスモンヨトウ、オオタバコガ</p> <p>(指定外) モザイク病、疫病、すすかび病</p>
トマト ミニトマト	<p>(指 定) 灰色かび病、葉かび病、疫病、アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ）、オオタバコガ、ハスモンヨトウ</p> <p>(指定外) うどんこ病、モザイク病、黄化葉巻病、ハモグリバエ類、ハダニ類</p>
エンドウ	<p>(指 定) シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ</p> <p>(指定外) 褐紋病、褐斑病、うどんこ病、灰色かび病、つる枯細菌病、ウラナミシジミ、ナモグリバエ、ハモグリバエ類、アブラムシ類（マメアブラムシ、エンドウヒゲナガアブラムシ）、ウワバ類、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）</p>
イチゴ	<p>(指 定) 灰色かび病、うどんこ病、アブラムシ類（ワタアブラムシ）、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）、アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウナマ）、ハスモンヨトウ</p>
カンキツ	<p>(指 定) かいよう病、黒点病、そうか病、アブラムシ類（ワタアブラムシ、ミカンクロアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ）、ハダニ類（ミカンハダニ）、果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）</p> <p>(指定外) 灰色かび病、褐色腐敗病、青・緑かび病、ミカンサビダニ、カイガラムシ類（ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ）、ロウムシ類（ツノロウムシ、ルビーロウムシ）、ゴマダラカミキリ、ミカンハモグリガ</p>
キウイフ ルーツ	<p>(指 定) かいよう病</p>

作物名	対象病害虫
カキ	<p>(指定) 炭疽病、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ)、カイガラムシ類(フジコナカイガラムシ)、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類(チャハマキ、チャノコカクモンハマキ)、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)</p> <p>(指定外) うどんこ病、灰色かび病、角斑落葉病、円星落葉病、落葉病、すす点病、コガシラアワフキ</p>
モモ	<p>(指定) せん孔細菌病、ハダニ類(クワオオハダニ、ナミハダニ、カンザワハダニ)、シンクイムシ類(ナシヒメシンクイ、モモノゴマダラノメイガ、モモシンクイガ)、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)</p> <p>(指定外) 黒星病、灰星病、アブラムシ類(モモアカアブラムシ)、モモハモグリガ、コスカシバ、カイガラムシ類(ウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ)</p>
ウメ	<p>(指定) 果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)</p> <p>(指定外) かいよう病、黒星病、すす斑病、アブラムシ類(ムギワラギクオマルアブラムシ)、ウメシロカイガラムシ、コスカシバ</p>

#### IV. 職員

区 分	所 在 地	職 名	氏 名
本 所	和歌山県紀の川市貴志川町高尾160 (農業試験場内) TEL 0736(64)2300 FAX 0736(65)2016	所 長 主 任 主 任 主 査 主 査 技 師 技 師	林 恭弘 久田 紀夫 衛藤 夏葉 岡本 崇 岡本 晃久 井沼 崇 木村 響 西端 千春
有田川 駐在	和歌山県有田郡有田川町奥751-1 (果樹試験場内) TEL 0737(52)4320 FAX 0737(53)2037	主 任 主 査 技 師	山本 浩之 武田 知明 松山 尚生
紀の川 駐在	和歌山県紀の川市粉河3336 (果樹試験場かき・もも研究所内) TEL 0736(73)2274 FAX 0736(73)4690	主 任 主 査 主 査 副主査	井口 雅裕 大谷 洋子 弘岡 拓人 増田 吉彦
みなべ 駐在	和歌山県日高郡みなべ町東本庄1416-7 (果樹試験場うめ研究所内) TEL 0739(74)3780 FAX 0739(74)3790	主 任 主 任 技 師	土田 靖久 菱池 政志 山本 圭太

## V. 病害虫発生予察情報の提供等

### 1. 発生予察情報の一覧

#### 1) 特殊報

令和4年6月13日

#### 令和4年度病害虫発生予察特殊報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick)

2. 発生地域：印南町

3. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和4年5月下旬、日高郡印南町のミニトマト施設周辺に設置した侵入警戒トラップにおいて、トマトキバガと疑われる成虫（写真1）が誘殺された。農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県では未発生のトマトキバガであることが確認された。なお、県内では他に紀の川市にもトラップを設置しているが、本地点では確認されていない。

また、現在のところ県内では本虫による農作物の被害は認められていない。

本種は南米原産であるが、平成18年にスペインへの侵入が確認され、ヨーロッパ、アフリカ、中央アメリカ、西アジア、アラビア半島、インド、ネパール、東南アジアに分布しており、令和3年5月までに、台湾、中国、中央アジア諸国などで発生が確認されている。また、国内では令和3年10月に熊本県で初めて確認され、12月に宮崎県、令和4年3月に鹿児島県、大分県、福岡県、長崎県、4月に愛媛県で確認されている。

4. 形態および生態

1) 形態

成虫は翅を閉じた静止時で体長5～7mm（前翅長5mm弱、開帳<sup>※1</sup> 約10mm）。前翅は灰褐色で黒色斑が散在する。後翅は一樣に淡黒褐色である（写真2）。

幼虫は終齢で約8mmに達する。体色は淡緑色～淡赤白色で、前胸の背面後縁に狭い黒色横帯を有する（写真3）。

※1 翅を左右に広げたときの両方の翅の先端から先端までの長さ

2) 生態

ア 1年に複数回の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、南米では年に10～12世代発生することが報告されている。

イ 卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。また、発育下限温度は8℃とされている。

ウ 成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。

エ 雌は一生のうち平均で約260個の卵を寄生植物の葉の裏面などに産み付ける。

オ 幼虫は1齢～4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。

### 3) 被害

トマトでは、葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成される（写真4）。食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じ果実品質が著しく低下する（写真5）。

### 4) 寄主植物

トマト、ピーマン、ナス、タバコ、バレイショなどのナス科植物が主要な寄主植物であるが、マメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。

### 5) その他

海外では、ピレスロイド系やジアミド系などの殺虫剤に対する抵抗性を獲得した個体群の発生が確認されている。

## 5. 防除対策

- 1) 現在、トマトキバガに対する登録農薬はないが、植物防疫法第29条1項に基づく措置として、別紙に記載された農薬による防除を行う。なお、薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- 2) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- 3) 被害葉や被害果は放置せず速やかに除去し、適切に処分する。

[写真1：神戸植物防疫所 原図]



写真1 誘殺されたトマトキバガ成虫

[写真2～5：熊本県病害虫防除所 原図]

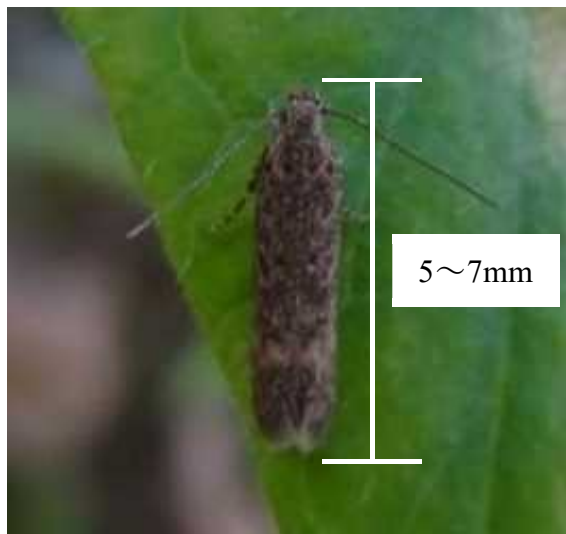


写真2 トマトキバガ成虫



写真3 トマトキバガ幼虫



写真4 幼虫によるトマト被害葉



写真5 幼虫によるトマト被害果

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300

## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

### ○ トマト

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ エ類登録
アクリナトリン・スピロメシフェン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	3A 23	ピレスロイド系 ピレトリン系 テトロン酸及びテトラ ミン酸誘導体	○	-
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150～300L/10a	3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和処理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 粒剤	株元散布	1g/株	育苗期後半～定 植時		1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時～育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6～9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又 は作業土壌混和	4～6kg/10a	は種時又は定植 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000～3000倍	1番花の開花まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ビリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m <sup>3</sup> (床面積200 m <sup>2</sup> ×高さ2m)当り 50g	収穫前日まで		2回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
還元澱粉糖化物・クロチア ニジン・ビリダリル・ベル メトリン・マンデストロピ ン水和剤	散布	原液	収穫前日まで		2回以内	4A 3A UN	ネオニコチノイド系 ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○



## ○ ミニトマト

農業の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
アクリナトリン・スピロメ シフェン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	3A 23	ピレスロイド系 ピレトリン系 テトロン酸及びテトラ ミン酸誘導体	○	-
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150～300L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和处理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000～2000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時～育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
テトラニプロール水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000～3000倍	1番花の開花まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		1回	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

## ○ ピーマン

農業の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 水和剤	灌注	100倍	育苗期後半~定 植当日	1株当たり25ml	1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
シベルメトリン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又は 作業土壌混和	4~6kg/10a	は種時又は定植 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
ノバルロン乳剤	散布	3000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ビリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソオキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m <sup>3</sup> (床面積200 m <sup>2</sup> ×高さ2m)当り 50g	収穫前日まで		2回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ベルメトリン乳剤	散布	200倍	収穫前日まで	100~300mL/m <sup>2</sup>	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ベルメトリン乳剤	散布	300倍	収穫前日まで	100~300mL/m <sup>2</sup>	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ なす

農業の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150~300L/10a	4回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和处理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6 28	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ジアミド系	○	○
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェスロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	灌注	100倍	育苗期後半~定 植当日	1株当り25ml	1回	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 粒剤	株元散布	1g/株	育苗期後半~定 植時		1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時~育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール水 和剤	灌注	400株当り25ml	育苗期後半~定 植当日	400株当り10~20L(1 株当り25~50ml)	1回	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又は 作条土壌混和	4~6kg/10a	は種時又は定植 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	灌注	200倍	育苗期後半~定 植当日	25ml/株	1回	28	ジアミド系	○	○
テトラニプロール水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000~3000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ビフェントリンくん煙剤	くん煙	くん煙処理室の 容積400m <sup>3</sup> (床面 積200m <sup>2</sup> ×高さ 2m)当り48g	収穫前日まで		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ビリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	UN		○	○
フェンバレレート・マラソ ン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	3A 1B	ピレスロイド系 ピレトリン系 有機リン系	○	-
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m <sup>3</sup> (床面積200 m <sup>2</sup> ×高さ2m)当り 50g	収穫前日まで		3回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェスロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
還元澱粉糖化物・クロチア ニジン・ビリダリル・ベル メトリン・マンデストロピ ン水和剤	散布	原液	収穫前日まで		3回以内	4A 3A UN	ネオニコチノイド系 ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

## ○ ばれいしょ

農業の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ エ類登録
NA C水和剤	散布	800~1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	1A	カーバメート系	○	-
P A P乳剤	散布	1000倍	収穫14日前まで	100~300L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
P A P粉剤	散布	3kg/10a	収穫14日前まで		2回以内	1B	有機リン系	○	○
アセタミプリド水溶剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	4A	ネオニコチノイド系	○	○
アセフェート水溶剤	散布	1000倍	収穫30日前まで	100~300L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
カルタップ水溶剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	6回以内	14	ネライストキシン類緑 体	○	○
カルタップ粉剤	種いも粉衣	種いも重量の 0.3%	植付前		1回	14	ネライストキシン類緑 体	○	-
シアントラニリブロール水 和剤	無人航空機による 散布	40倍	収穫7日前まで	2~3.2L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
シアントラニリブロール水 和剤	散布	4000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又は 作条土壌混和	4~6kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
トラロメトリン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
プロチオホス乳剤	散布	1000倍	収穫14日前まで	100~300L/10a	3回以内	1B	有機リン系	○	○
プロフェノホス乳剤	散布	1500倍	収穫7日前まで		6回以内	1B	有機リン系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		4回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メソミル水和剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	5回以内	1A	カーバメート系	○	-
メソミル粉粒剤	散布	3~5kg/10a	収穫7日前まで		5回以内	1A	カーバメート系	○	-
ルフエヌロン乳剤	散布	3000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○

## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ さやいんげん

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
MEP乳剤	散布	1000倍	収穫21日前まで	100~300L/10a	4回以内	1B	有機リン系	○	○
PAP乳剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	1回	1B	有機リン系	○	○
エトフェンブロックス乳剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
クロラントラニプロール水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クオルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
シアントラニプロール水和剤	散布	4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000~3000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンシアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ペルメトリン乳剤	散布	3000倍	収穫14日前まで	100~300L/10a	3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ペルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
マラソン乳剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	1B	有機リン系	○	○
マラソン粉剤	散布	3kg/10a	収穫7日前まで		3回以内	1B	有機リン系	○	○
レピメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○

## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ ほおずき

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
DEP乳剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	6回以内	1B	有機リン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000倍	-	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
BT水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	-	11A	<i>Bacillus thuringiensis</i> と生産殺虫タンパク質	○	-
MEP乳剤	散布	1000倍	-	100~300L/10a	6回以内	1B	有機リン系	○	○
アセフェート水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	5回以内	1B	有機リン系	○	○
イソキサチオン粉粒剤	作条処理 土壌混和	6kg/10a	定植時		1回	1B	有機リン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	5回以内	6	アベルメクシン系 ミルペマイシン系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	発生初期	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	4回以内	UN		○	○
ペルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		6回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン粒剤	株元散布	3~6kg/10a	生育期		6回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	発生初期	100~300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000倍	発生初期	100~300L/10a	4回以内	28	ジアミド系	○	-
アセフェート粒剤	株元散布	6kg/10a	発生初期		5回以内	1B	有機リン系	○	○
シハロトリン乳剤	散布	4000倍	-	100~300L/10a	3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
テトラニリブロール水和剤	散布	2500~5000倍	発生初期	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テブフェノジド水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	5回以内	18	ジアシル-ヒドラジン系	○	-
トルフェンピラド・メタフルミゾン水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	4回以内	21A 22B	METI剤 セミカルバゾン系	○	○
メタフルミゾン水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	6回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000倍	発生初期	100~300L/10a	5回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ペルメトリン乳剤	散布	2000倍	発生初期	100~300L/10a	6回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	発生初期	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ たばこ

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
BT水和剤	散布	1000~2000倍	発生初期(但し収 穫3日前まで)	25~180L/10a	4回以内	11A	<i>Bacillus thuringiensis</i> と生産 殺虫タンパク質	○	-
MEP乳剤	散布	1000倍	収穫20日前まで	25~180L/10a	1回	1B	有機リン系	○	○
NAC粒剤	株元散布	3~6kg/10a	移植時		1回	1A	カーバメート系	○	-
PAP粉剤	散布	3~5kg/10a	-		2回以内	1B	有機リン系	○	○
アセフェート水溶剤	散布	1500~2500倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
アセフェート水和剤	散布	1500~2500倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
アセフェート粒剤	作条散布後土壌 混和	3~6kg/10a	移植前		1回	1B	有機リン系	○	○
アラニカルブ乳剤	散布	1000~1500倍	発生初期~収穫 10日前まで	100~180L/10a	2回以内	1A	カーバメート系	○	-
イソキサチオン乳剤	散布	1000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和处理	6~9kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
イソキサチオン粉粒剤	土壌表面散布土 壌混和处理	6~9kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
イソキサチオン粒剤	株元処理	3kg/10a	植付時		1回	1B	有機リン系	○	-
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	1回	22A	オキサジアジン系	○	-
エトフェンブロックス乳剤	散布	2000倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
クロラントラニリプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	1回	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニリプロール水 和剤	散布	4000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
シハロトリン水和剤	散布	2000~3000倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
シフルトリン乳剤	散布	2000~3000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
シペルメトリン乳剤	散布	2000~3000倍	発生初期~収穫 10日前まで	25~180L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ジメトエート・フェンパレ レート乳剤	散布	3000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	2回以内	1B 3A	有機リン系 ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
ピフェントリン水和剤	散布	1500倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
プロチオホス乳剤	散布	1000倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
ペルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	定植時		1回	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メソミル水和剤	散布	1000~2000倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	1A	カーバメート系	○	-
メタアルデヒド・NAC粒剤	株元散布	3~4kg/10a	移植後		1回	1A	カーバメート系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000~2000倍	収穫10日前まで	25~180・/10a	2回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-

## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ とうがらし

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロラントラニプロール水和 剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300・/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
	灌注	100倍	育苗期後半~定 植当日	1株当たり25mℓ	1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ペルメトリン乳剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ペルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	収穫開始7日前ま で		2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レピメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○



## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ ししとう

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	18	ジアニル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール水和 剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300・/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
	灌注	100倍	育苗期後半~定 植当日	1株当たり25ml	1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~8g/m <sup>2</sup>	植付時		1回	1B	有機リン系	○	-
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ペルメトリン乳剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ペルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	収穫開始7日前ま で		2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	18	ジアニル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レピメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○

令和4年11月21日

令和4年度病害虫発生予察特殊報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：サツマイモ基腐病

2. 病原菌名：*Diaporthe destruens*

3. 発生確認の経過および県外での発生状況

令和4年10月、串本町のサツマイモ栽培ほ場において、茎の地際部が黒色に変色し、塊根の成り首側が腐敗した株が確認された（図1、2）。株を採取して農林水産省神戸植物防疫所に診断を依頼したところ、本県未発生の基腐病であった。

国内において、本病は平成30年に沖縄県で初めて発生が確認された。現在、28都道府県で発生が確認されており、近隣では、大阪府、兵庫県、徳島県で確認されている。

4. 病徴および発生生態

1) 発病すると葉が赤変、黄変し生育不良となる。茎は地際部から、暗褐色～黒色に変色する（図1）。その後、茎葉の枯死や塊根の成り首側の腐敗が生じ（図2）、腐敗は次第に塊根全体に広がる。収穫時には健全に見えた塊根が貯蔵中に腐敗することもある。

2) 発病株では、表層に微少な黒点粒状の柄子殻が形成される（図3）。柄子殻から漏出した胞子は、風雨やほ場の停滞水によって周辺株に広がって感染する。

3) 罹病したつるや塊根で伝搬する。また、植物残さ上で越冬し、翌年の伝染源となる。

4) 本ほ場で茎葉が繁茂する時期は株の異常に気付きにくい。このため、収穫時期が近づき、茎葉の生育が衰える頃になって枯れ上がったように見える場合が多い。

5) 本菌の宿主はヒルガオ科植物（サツマイモを含む）である。

5. 防除対策

1) 本病の未発生ほ場で生産された健全種苗を使用する。

2) 未消毒の苗を使用する場合は、適用のある農薬で消毒する（表1）。

3) 発病株（茎葉や塊根）は速やかに抜き取り、適切に処分する。その後、周辺株への感染予防のため登録農薬（表1）を散布するとともに、以降も新たな発病株がないか注意する。また、収穫後の残さはほ場から持ち出し、適切に処分する。

4) 発生ほ場では、次作の植付前に土壌消毒を行う（表1）。

5) 発生ほ場で使用した農機具や資材は、洗浄や消毒を十分に行う。

6) 排水不良なほ場で発生しやすいため、排水対策を十分に行う。

7) 多発ほ場ではサツマイモの連作を避け、ヒルガオ科植物以外の作物を栽培する。

8) 詳細は、農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C)のマニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」を参照する ([https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/stem\\_blight\\_and\\_storage\\_tuber\\_rot\\_of\\_sweetpotator03.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator03.pdf))。



図1 地際部の黒変

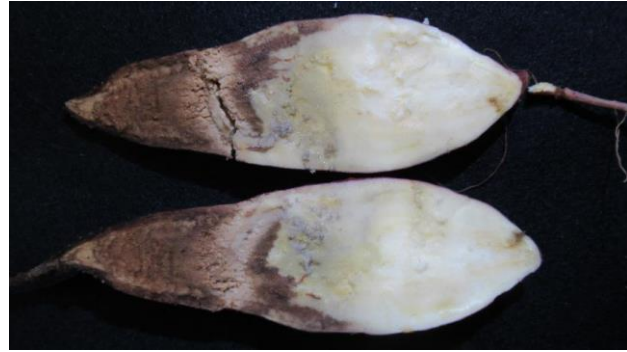


図2 塊根の断面（左が成り首側）

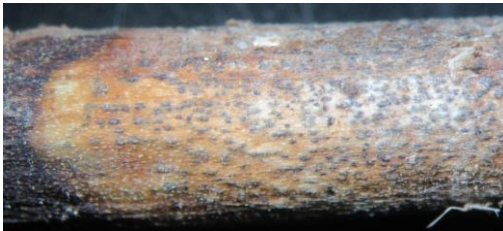


図3 地際部の茎に生じた柄子殻

表1 サツマイモ基腐病の登録農薬（令和4年11月現在）

農薬名（有効成分名）	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数※
<b>&lt;種いも・苗浸漬&gt;</b>				
トップジンM水和剤（チオファネートメチル）	30分間採苗用種いも浸漬	200～500倍	貯蔵前～伏せ込み前	1回
ベンレートT水和剤20（チウラム・ベノミル）	30分間苗浸漬	200倍	植付前	1回
ベンレート水和剤（ベノミル）	30分間苗浸漬	500～1000倍	植付前	1回
トリフミン水和剤（トリフルミゾール）	17時間苗基部浸漬	500倍	植付前	1回
<b>&lt;本ぼ&gt;</b>				
トリフミン水和剤（トリフルミゾール）	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	2回以内
ジーファイン水和剤（炭酸水素ナトリウム・銅）	散布	1000倍	収穫前日まで	-
アミスター20フロアブル（アゾキシストロピン）	散布	2000倍	収穫14日前まで	3回以内
Zボルドー（銅）	散布	500倍	-	-
<b>&lt;土壌消毒&gt;</b>				
フロンスайд粉剤（フルアジナム）	全面土壌混和	40kg/10a	植付前	1回
フロンスайдSC（フルアジナム）	全面散布土壌混和	500ml/10a	植付前	1回
バスタード微粒剤（ダゾメット）	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	30kg/10a	植付21日前まで	1回
ガスタード微粒剤（ダゾメット）	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	30kg/10a	植付21日前まで	1回
キルパー（カーバマナトリウム塩）	前作の作物残渣を含む土壌表面に所定量の薬液を散布し、直ちに混和し鎮圧又は被覆する。	原液として 60L/10a	前作の栽培終了後から植付の15日前まで	1回

※ ただし、同一の有効成分を含む農薬の総使用回数を超過しないよう注意する。

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300

3.4 1.2 22  
43 29  
40  
15  
16 15  
40

/²>/ >2v p>| Wª b%4 í4Š \_> E• ±Đ ĵ m \\$S § ¨ 4 b\$î#Õ"g #

<https://pesticide.maff.go.jp/>

0736(64) 2300



























































































































































































